

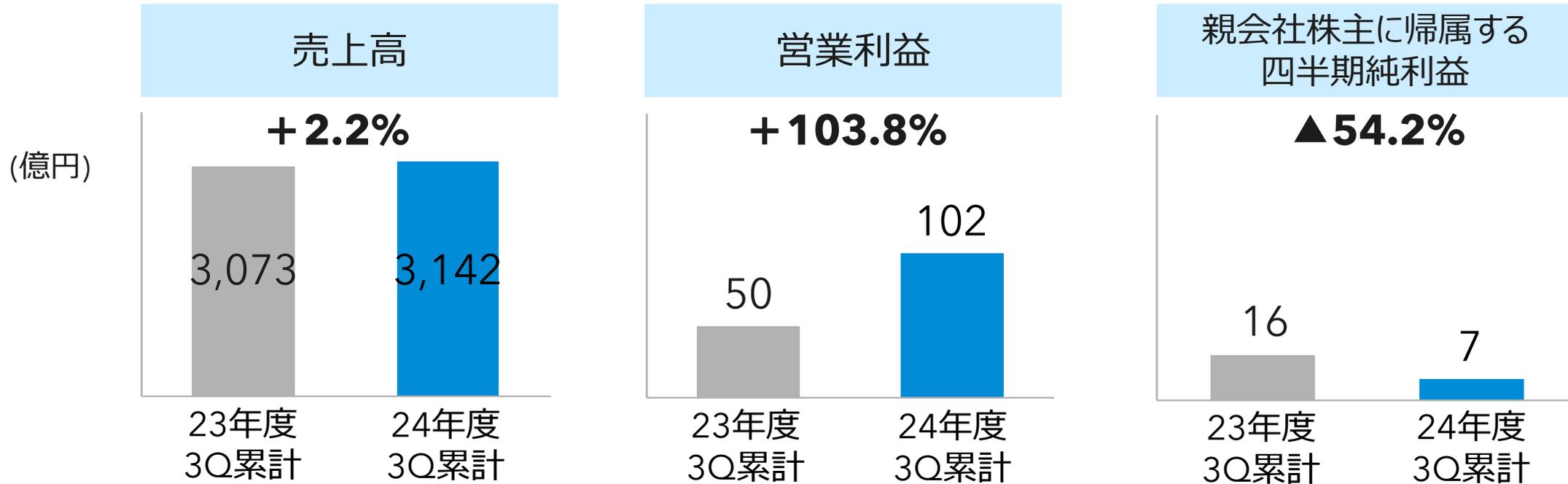
2025. 2. 12

2024年度 第3四半期 決算説明

東洋紡株式会社

第3四半期累計実績

工業用フィルム、環境・機能材が堅調に推移し、要改善事業の収益性改善により、営業利益は増益。四半期純利益は、7億円に留まる



2025年3月期 通期予想

ライフサイエンスが減益も、堅調な工業用フィルムに加え、要改善事業対策により、営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

決算サマリー | PL

TOYOBO

(億円)

	23年度 3Q累計	24年度 3Q累計	増減	
			金額	率
売上高	3,073	3,142	+69	+2.2%
売上総利益	648	711	+63	+9.7%
営業利益	50	102	+52	+103.8%
(率)	1.6%	3.2%	-	-
営業外損益	▲ 26	▲ 46	▲ 20	-
経常利益	24	55	+31	+131.0%
特別損益	12	▲ 13	▲ 26	-
非支配株主に帰属する四半期純利益 (控除)	1	27	+26	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	16	7	▲ 9	▲ 54.2%
EBITDA* <small>* 営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)</small>	195	271	+77	+39.5%
EPS (円)	17.9	8.2	-	-
ROE* <small>* 年換算ベース。 (四半期純利益×4/3)÷期首・期末平均自己資本</small>	1.1%	0.5%	-	-
減価償却費	145	170	+25	+17.3%
設備投資	451	344	▲ 108	▲ 23.8%
研究開発費	118	109	▲ 9	▲ 7.8%

営業外損益・特別損益

営業外損益 内訳

(億円)

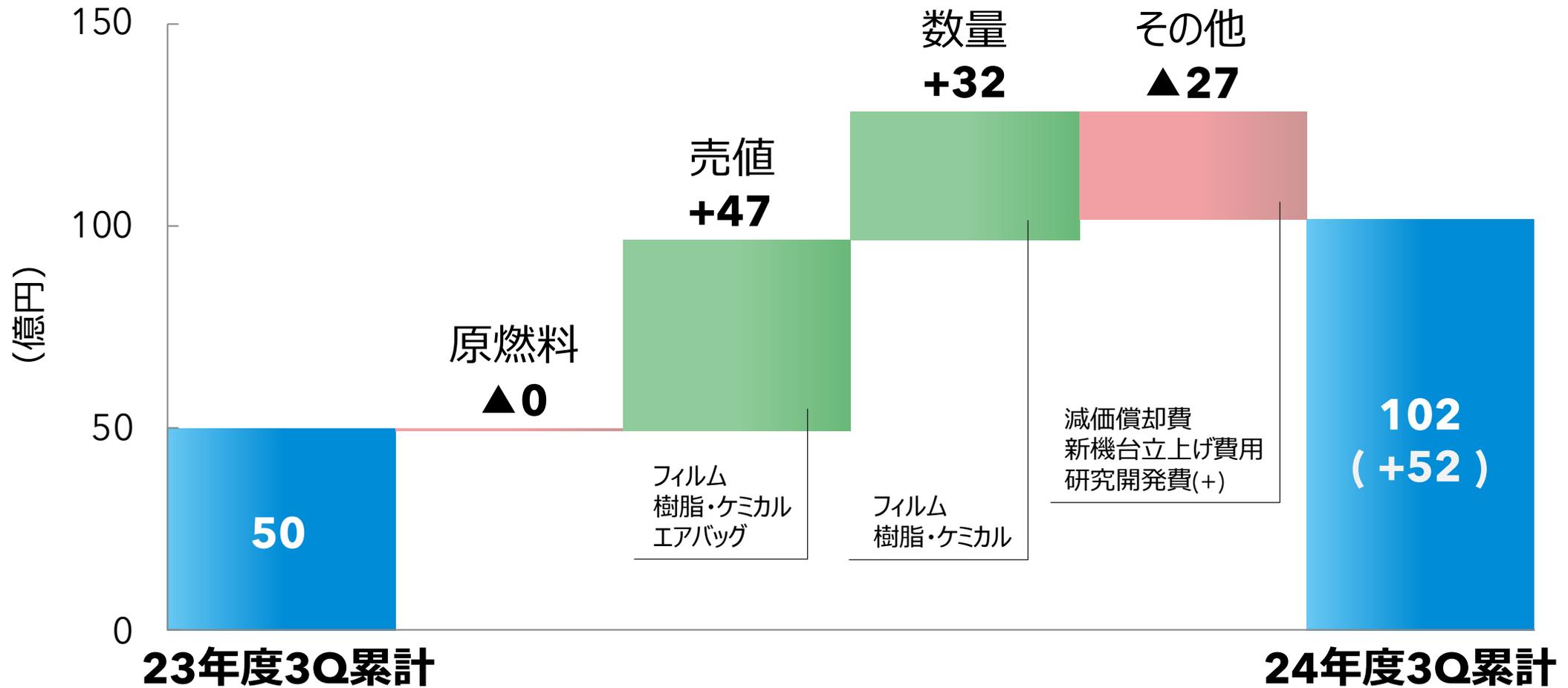
	23年度 3Q累計	24年度 3Q累計	増減
為替差益	8	2	▲ 6
受取補償金	-	5	+5
その他	13	15	+2
営業外収益 計	21	22	+1
支払利息	10	15	+5
その他	37	53	+16
営業外費用 計	46	68	+22
営業外損益 計	▲ 26	▲ 46	▲ 20

特別損益 内訳

(億円)

	23年度 3Q累計	24年度 3Q累計	増減
関係会社株式売却益	-	15	+15
投資有価証券売却益	30	1	▲ 30
特別利益 計	30	16	▲ 15
減損損失	-	10	+10
固定資産処分損	16	18	+2
その他	2	1	▲ 1
特別損失 計	18	29	+11
特別損益 計	12	▲ 13	▲ 26

営業利益の増減要因



	22年度		23年度				24年度		
	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
為替レート (円/US\$)	141	132	137	145	148	149	156	148	152
国産ナフサ (千円/kl)	72	67	67	64	73	73	79	77	73

		(B)	(A)	(億円)
	23/3末	24/3末	24/12末	増減(A)-(B)
総資産	5,889	6,070	6,141	+71
現預金	607	338	307	▲ 31
棚卸資産	1,219	1,220	1,230	+10
有形固定資産	2,402	2,815	2,960	+145
純資産	2,214	2,301	2,325	+24
自己資本	1,896	1,970	1,955	▲ 15
うち利益剰余金	705	703	676	▲ 28
非支配株主持分	318	331	370	+39
有利子負債	2,294	2,492	2,659	+167
D/E レシオ	1.21	1.26	1.36	-
D/E レシオ (資本性調整後) ^{*1}	-	-	1.14	-
Net Debt / EBITDA倍率 ^{*2}	5.8	7.5	6.5	-

*1 劣後ローンおよび劣後債資本性調整後のD/Eレシオ

*2 (有利子負債 - 現預金) <期末> / EBITDA <年換算>

決算サマリー | セグメント別

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益		
	23年度 3Q累計	24年度 3Q累計	23年度 3Q累計	24年度 3Q累計	増減
フィルム	1,174	1,249	15	38	+23
ライフサイエンス	253	257	35	15	▲ 20
環境・機能材	862	835	30	56	+26
機能繊維・商事	689	713	▲ 15	1	+16
不動産・その他	96	88	21	18	▲ 3
消去・全社	-	-	▲ 36	▲ 26	+10
合計	3,073	3,142	50	102	+52

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	781	393	1,174	828	421	1,249	+75	+6.4%
営業利益	14	1	15	30	8	38	+23	+155.9%
(率)	1.8%	0.2%	1.3%	3.6%	2.0%	3.1%	-	-

包装用フィルム

- 新製品開発費用などコスト上昇影響あるも、荷動きの回復や製品価格改定の進捗により、収益性は回復基調

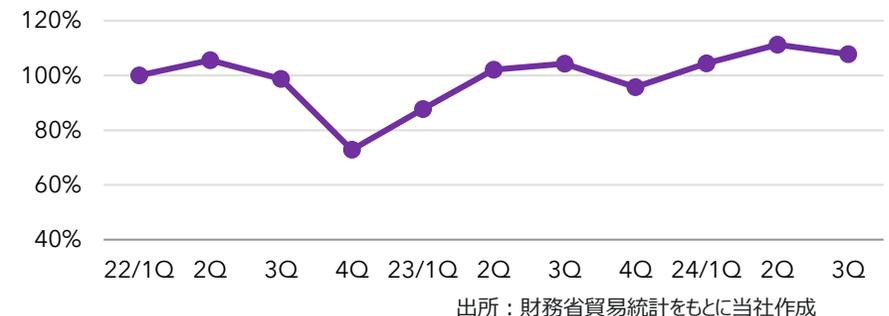
工業用フィルム

- 液晶偏光子保護フィルムは、堅調に推移
- セラミックコンデンサ用離型フィルムは、本格的な需要拡大に至らず。新機台の立上げ費用が増加

食品包装用OPPフィルム国内市場 出荷実績 (22/1Q:100%)



日本からのMLCC輸出実績 (22/1Q:100%)



(億円)

	23年度			24年度			増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	166	87	253	172	85	257	+5	+1.9%
営業利益	24	11	35	9	6	15	▲ 20	▲ 57.3%
(率)	14.5%	12.5%	13.8%	5.3%	6.8%	5.8%	-	-

バイオ

- 診断薬用原料酵素は、国内外ともに需要堅調。生産能力増強に伴う費用が増加

メディカル

- 人工腎臓用中空糸膜は、需要堅調。新工場の立上げ費用やインフラ関連費用が増加

医薬

- 米国FDAからの Warning Letter 解除（2023年7月）、製品価格の改定により、収益性が改善

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	525	336	862	552	283	835	▲ 26	▲ 3.1%
営業利益	4	26	30	34	23	56	+26	+87.1%
(率)	0.7%	7.8%	3.5%	6.1%	8.0%	6.7%	-	-

樹脂・ケミカル

- エンジニアリングプラスチックは、北中米向け自動車用途の販売が拡大
- 光機能材料（感光性樹脂版）は、中国や東南アジア向けを中心に販売が増加

環境・ファイバー

- 環境ソリューションは、リチウムを濃縮回収するためのBC*1膜装置の販売が寄与。
EV市場減速の影響により、LIBS*2製造工程で使用されるVOC回収装置の出荷が減少
- 高機能ファイバーは、海外需要を着実に取り込み、堅調に推移
- 不織布マテリアルは、国内生産体制の見直しが進み、収益性が改善

*1 Brine Concentration

*2 リチウムイオン電池セパレータ

(億円)

	23年度			24年度			増減	
	上期	3Q	3Q累計	上期	3Q	3Q累計	金額	率
売上高	457	232	689	479	233	713	+24	+3.5%
営業利益	▲ 9	▲ 7	▲ 15	1	▲ 0	1	+16	-
(率)	-	-	-	0.2%	-	0.1%	-	-

衣料繊維

- 中東向け特化生地は、強い需要に牽引され販売が増加。為替影響により輸出採算が好転
- 国内生産拠点の集約などの構造改革により、収益性が改善

エアバッグ用基布

- 製品価格の改定が進み、収益性が改善

2024年度の事業環境見通し

セグメント	事業	前回見通し (2024年11月時点)	今回見通し	
			対前回*	
フィルム	包装用	在庫調整を終え、緩やかに回復へ	—	在庫調整を終え、緩やかに回復へ
	工業用	液晶偏光子保護フィルムは需要堅調	—	需要堅調
		MLCCは年度を通じて徐々に拡大	▲	年度を通じて徐々に拡大も想定ペースを下回る
ライフサイエンス	バイオ	生化学診断薬用酵素は需要堅調	—	需要堅調
	メディカル	人工腎臓用中空糸膜は需要堅調	—	需要堅調
環境・機能材	樹脂・ケミカル	自動車用途はアジア向けで減速感あり。北中米向けは堅調	—	アジア向けで減速感あり。北中米向けは堅調
		電子材料用途の需要回復	—	需要回復
	環境・ファイバー	VOC回収装置は、EV化減速の影響あり	—	EV化減速の影響あり
		不織布マテリアルの厳しい競争環境は継続	—	厳しい競争環境は継続
機能繊維・商事	エアバッグ	アジア向けで減速感あり。北米向けは堅調	—	アジア向けで減速感あり。北米向けは堅調
共通		国産ナフサ価格は高止まり（製品価格の改定で対応）	—	国産ナフサ価格は高止まり（製品価格の改定で対応）

* 前回見通しに対し、○：改善・拡大、—：想定通り、▲：悪化・減少 12

2024年度 業績見通し

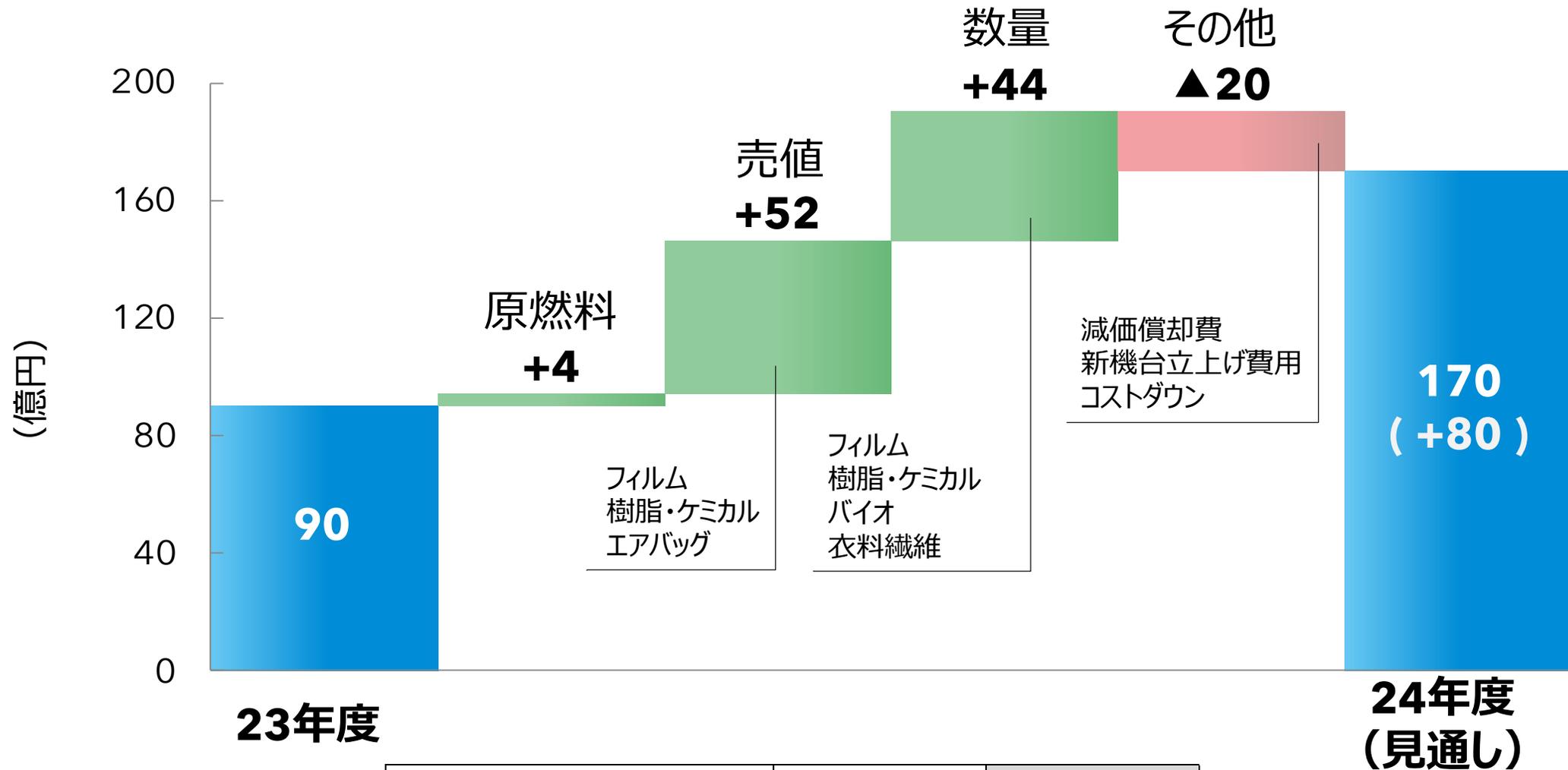
ライフサイエンスが減益も、堅調な工業用フィルムに加え、要改善事業対策により、
営業利益 170 億円、当期純利益 26 億円の予想を据え置く

(億円)

	23年度	24年度			増減		直近予想 (24/11)
	実績	上期	下期	見通し	金額	率	
売上高	4,143	2,092	2,258	4,350	+207	+5.0%	4,350
営業利益	90	69	101	170	+80	+89.0%	170
(率)	2.2%	3.3%	4.5%	3.9%	-	-	3.9%
経常利益	70	32	83	115	+45	+65.2%	115
特別損益	▲ 14	▲ 9	▲ 31	▲ 40	▲ 26	-	▲ 40
親会社株主に帰属する当期純利益	25	1	25	26	+1	+5.9%	26
EBITDA	288	181	219	400	+112	+38.9%	403
EPS (円)	27.9	1.3	28.2	29.5	-	-	29.5
減価償却費	198	112	118	230	+32	+16.1%	233
設備投資	616	250	200	450	▲ 166	▲ 26.9%	480
研究開発費	153	72	78	150	▲ 3	▲ 2.0%	150

■ 設備投資 セラコン用離型フィルム新機台、バイオ工場リニューアル、重合設備更新

営業利益の増減要因



	23年度	24年度	直近予想 (24/11)
為替レート (円/US\$)	145	154	150
国産ナフサ (千円/kl)	69	76	75

セグメント別見通し

TOYOBO

(億円)

	売上高		営業利益			直近予想 (24/11)
	23年度 実績	24年度 見通し	23年度 実績	24年度 見通し	増減	
フィルム	1,565	1,700	27	65	+38	65
ライフサイエンス	346	360	44	25	▲19	32
環境・機能材	1,153	1,150	47	80	+33	80
機能繊維・商事	957	1,020	▲10	8	+18	5
不動産・その他	122	120	30	27	▲3	25
消去・全社	-	-	▲48	▲ 35	+13	▲37
合計	4,143	4,350	90	170	+80	170

補足

セグメント別情報

TOYOBO

(億円)

売上高	23 年度					24 年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
フィルム	390	391	393	391	1,565	421	407	421
ライフサイエンス	81	84	87	93	346	81	91	85
環境・機能材	250	276	336	292	1,153	281	272	283
機能繊維・商事	222	235	232	268	957	240	239	233
不動産・その他	28	38	30	26	122	29	31	29
消去・全社	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	971	1,024	1,079	1,069	4,143	1,052	1,040	1,051

営業利益	23 年度					24 年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q
フィルム	12	2	1	12	27	15	15	8
ライフサイエンス	14	10	11	10	44	4	5	6
環境・機能材	▲ 7	10	26	17	47	13	21	23
機能繊維・商事	▲ 7	▲ 1	▲ 7	5	▲ 10	2	▲ 1	▲ 0
不動産・その他	4	10	7	9	30	5	7	6
消去・全社	▲ 17	▲ 7	▲ 12	▲ 12	▲ 48	▲ 7	▲ 9	▲ 10
合計	▲ 1	24	26	40	90	31	38	32

第167回定時株主総会での承認を条件として、
「監査役会設置会社」から「監査等委員会設置会社」への移行を決議（2025年2月12日）

背景

より迅速で効率的な業務執行と高度な経営監督を両立することの重要性が高まる

目的

- ・ 取締役会の業務執行決定の権限の一部を取締役に委任し、より迅速な意思決定ができる体制へ
- ・ 取締役会は、経営の基本方針などに関する審議・決定や業務執行の監督に重点を置く
モニタリング・ボードへの移行を志向
- ・ 監査を担う役員が監査等委員である取締役として取締役会における議決権を有することにより
監督機能を強化

時期 2025年6月下旬

液晶偏光子保護フィルム“コスモシャインSRF” 生産能力を増強

既存のPETフィルム製造設備を改造、“コスモシャインSRF”（以下、SRF）が生産可能に

- SRF生産能力： **最大約3割アップ**
- 時期： 2025年度 増産体制構築、2026年度 量産開始
- 特長： 3メートル幅での生産が可能（偏光板メーカー顧客のさらなる大型化要請にも柔軟に対応）
- 所在地： つるがフィルム工場（敦賀事業所内）

“コスモシャインSRF” 超複屈折ポリエステルフィルム

主な用途： **液晶TVの偏光子保護フィルム**

特長： 偏光子保護フィルムとして唯一のポリエステル製（耐水性、耐久性）
⇒吸湿による画面の反りやゆがみが生じにくい

市場*1： 成長率 **3%/年***2（画面の大型化）

グローバルシェア： **約 60%***3

*1 液晶TV向け偏光子保護フィルム市場

*2 調査会社資料などをもとに当社推定（2030年まで）

*3 当社推定



つるがフィルム工場

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、本資料作成時点において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後の種々の要因によって、本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

東洋紡株式会社

TOYOBO
Beyond Horizons